

慢性痛
急性痛

香曾我部義則先生の今月のカルテ

vol.103

ペインクリニックの現場から

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生と藤井洋泉先生が、病みの治療や緩和についての情報を届けてくれる「ペインクリニックの現場から」。今号は、香曾我部先生による腰部脊柱管狭窄（せきちゆうかんきょうさく）症についてです。

歩いてしばらくすると、特徴的な症状です。

腰から足にかけて痛みが出て、次第にしびれを伴い歩けなくなり、少し休むと楽になり再び歩けるようになる。これが間欠跛行（かんけつぱこう）で、腰部脊柱管狭窄症の

骨や神経で囲まれた部位

です。この中を通る脊髄神経を馬尾神経といい、馬尾神経が通るトンネルが狭くなると神経が圧迫され、痛み、しびれ、脱力やまひが起ります。

ん症、脊椎手術後などでも起ります。単に脊柱管が狭くなると発症するのではなく、発生には椎間板と椎間関節が大きく関与しています。椎間板が変性すると椎間関節の不安定性が生じ、椎間板の高さの減少、椎間関節の変性、黄色靭帯（じんたい）の肥厚、椎間孔の狭小化などが重なり、脊柱管が狭窄すると神経組織の血流障害で、静脈のうっ血や神経根浮腫が神経の酸素不足を招くことで症状が起ると考えられています。

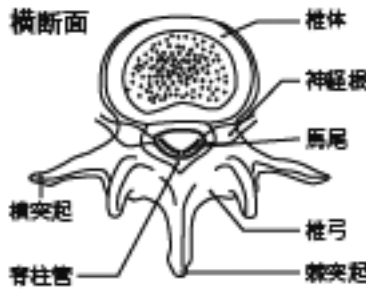
で、腰部脊柱管狭窄症の、狭窄症は、両下肢や陰部、足裏の異常知覚が主体で、残尿や頻尿、便秘といったぼうこう直腸障害を生じる中心型、単根性の運動・知覚障害が主体で、片側性が多く、疼（どう）痛が主症状の外側型、両方の症状が見られる混合型に分けられます。脊柱管は、図のように

狭窄症の原因は、加齢が原因の変形性脊椎症によるものが一番多く、腰部椎間板ヘルニア、変性すべり症、変性側弯（わ

が生じた結果、馬尾・神経根に障害が生じ、腰部肢症状、特に間欠跛行の

表の項目の点数を合計して13点以上なら腰部脊柱管狭窄症が疑われます。

■プロフィール こうそがべ・よしのり
昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に。平成16年から現職。日本麻酔学会指導医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属



- 【腰部脊柱管狭窄症のチェック項目】
- ①しびれや痛みはしばらく歩くと強くなり、休むと楽になる (5点)
 - ②しばらく立っているだけで、太ももからふくらはぎ、すねにかけてしびれたり痛くなったりする (5点)
 - ③60歳以上である (4点)
 - ④両足の裏側にしびれがある (3点)
 - ⑤お尻の周りにしびれがある (3点)
 - ⑥しびれや痛みは足の両側 (左右) にある (2点)
 - ⑦前かがみになると、しびれや痛みは楽になる (1点)
 - ⑧しびれはあるが、痛みはない (1点)
 - ⑨しびれや痛みで、腰を前にまげるのがつらい (-1点)
 - ⑩しびれや痛みで、靴下を履くのがつらい (-1点)

自転車に乗るとしびれないが、立っていると下肢がしびれる
その症状は、腰部脊柱管狭窄症かも

お答えは、梶木病院北区西花尻の香曾我部先生です。☎086(29)330000